

令和7年度 特別支援教育公開セミナー

テーマ「インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実について」

期日：令和7年8月22日（金） 場所：長崎大学文教スカイホール

長崎県教育センターの橋口陽介先生、長崎県立諫早東特別支援学校の石橋みか先生をお招きして、講演や実践報告、情報交換会を行いました。

遠くは南島原、平戸など県内各地から、幼稚園や保育園、小中学校、特別支援学校、福祉関係者や保護者など多くの方にご参加いただき、100名を超えるセミナーとなりました。今年度は特に、幼稚園や保育園から多くの先生方にご参加いただき、校種や職種を超えて学び合える時間となりました。当日の様子と、一部ですが参加者の方の声を掲載しております。

地域の皆様と一緒に特別支援教育の更なる充実を図れるよう、本セミナーは次年度以降も継続して取り組む予定です。関心のある方は、次年度ぜひお待ちしております。

講演では、橋口先生より「一人ひとりが輝く教室を目指して」という演題で、インクルーシブ教育推進についての基礎や、学校での合理的配慮・基礎的環境整備の内容や提供までの流れを理論的にお話いただきました。また、実際の事例について、児童生徒に必要な支援をグループで考える時間を通して、様々な校種の先生方と共に学び合う機会となりました。

実践報告では、フィンランドにおけるインクルーシブ教育の実践について、教育の特徴や主体的に学びの場を選択できる仕組み、学級編成や教室の様子など、石橋先生の研修での実践や体験を基にお話いただきました。



参加者の皆様の声（アンケートより一部抜粋）

支援の基本的な考え方や、海外の教育についても知ることが出来て、貴重な時間になりました。

みんなが多様性を受け入れるためには、自己理解と他者理解を小さいときから育てていかなければと思いました。たくさんの方の考えさせられるセミナーでした。

障害の有無にかかわらず、一人一人の教育的ニーズに応じた保育を行っていきたいと改めて感じました。そのためにも日頃から園内での情報共有が大切だと学ぶことができた。

子供たちが主体的に学びを選択することは全ての子供達に対して大切なことであると感じた。日本の教育の中でできる学びの選択や主体的に学ぶために何ができるか考えていきたい。

困っている子供の立場になって、どういう支援をすると集団生活に参加できるだろう？という目線で、合理的配慮を考え、支援や手立てを工夫する必要があると感じました。今回のセミナーでいろんな角度から子供を観察して、研究することが大切なんだと大変勉強になりました。

その他、開催方法や内容について、今後の参考になるたくさんの意見をいただいております。
ご回答いただいた皆様、ありがとうございました